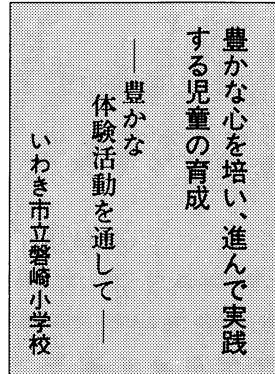


研究 実践



まな指導の工夫を行つた。

(三) 道徳的価値についての内面的な自覚を深めることができる多様な指導方法の工夫

(四) 具体的な道徳的実践に結びつく指導の工夫

2 各教科、特別活動及び日常生活における体験活動の充実

(一) 教育活動全体の見直しと改善

(二) 多様な体験活動

(三) 特別活動及び日常生活における体験活動の充実

(一) 教育活動全体の見直しと改善

(二) 多様な体験活動

(一) 教育活動全体の見直しと改善

アイマスクをしての歩行、車いすの

体験活動などを実施した。

(三) 道徳的環境の充実と整備

○オアシス運動

○あいさつ標語づくり

○道徳コーナーの設置

○心の広場の設置

○栽培活動

○「藤原川の友だち」看板つくりと

設置

(一) 家庭・地域社会との連携の重視

(二) 意識調査

(三) 基本的な生活習慣の定着を図る

ための家庭との連携

(一) 家庭生活のめあて「いわさきっ子」

を通して、家庭での生活習慣が身に

つきよう保護者の協力を得ながら、

取り組んできた。

(二) 道徳だよりの発行

毎月発行し、道徳教育研究の様子

や体験活動への児童の取り組みの様

子等を紹介した。

(三) 全学級による道徳の授業公開と

道徳教育講演会の実施

(一) 「あいさつ運動」による地域との連携

青少年健全育成市民会議と連携して

行ってきた。また、「あいさつ運動

標語コンクール」「非行防止標語コン

クール」にも参加した。

二 研究の成果

1 体験を効果的に授業に取り入れることにより、児童は、意欲的に

価値の追求に取り組み、道徳的価値との関連から自分自身の生活を見つめることができるようになつ

てきた。

2 体験活動の場が充実したことにより、児童は、新たな発見や気付

きを得ることができるとともに、意欲的に道徳的実践に取り組むよ

うになつてきた。

3 今後の課題

児童の道徳性をより的確にとらえ、その変容を把握する評価の方法のあり方について研究を深める必要がある。

三 今後の課題

児童の道徳性をより的確にとらえ、その変容を把握する評価の方法のあり方について研究を深める必要がある。

